

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表: 2024年3月11日

事業所名 淡路こども園

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			
	2 職員の配置数は適切である	○		クラス職員の人数や子どもの調子に応じてフォローに入ってもらい体制を整えている。	規程の職員数はクリアしているが、個々の子どもの状況によって、個別対応が必要なのでそこは配慮して体制を組むようにしたい。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている		○	子どもが寒さからトイレに行きにくいのではと感じる事があるので、寒さ対策としてトイレの床にマットを敷いたり工夫している。	建物が古くバリアフリー化が進んでいない。2階は階段でしか行けない。全てのバリアフリー化は難しいが情報伝達の方法など改善していきたい。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		・古い施設の為、設備も老朽化しているが日々、清潔を心がけ掃除や日常触る所の消毒も入念にしている。施設内の安全点検を毎月行っている。	施設内の安全点検を行い、危険のないよう、また衛生的で少しでも快適に過ごせるよう掃除や工夫をしていきたい。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○			業務改善に向けて職員の意識を高めるために施設全体で取り組みたい。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		評価表をもとに職員全体で読み合わせ、改善に向けてできることから改善するようにしている。	保護者の評価をふまえ、設備や衛生面についてすぐに改善できることから取り組み、保護者や子どもが安心して園生活を送れるようにしている。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			年1回ホームページで評価及び改善の内容を公開している。
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		外部評価を行う方向で考えている。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		定期的に入権研修、虐待、ハラスメント、感染予防等さまざまな研修を行っている。	職員育成という点では、療育現場での保育の力をつけるような研修も行っていきたい。
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		保護者にアセスメントし、計画を立て、関係者で確認をした上で、保護者に説明し、修正があれば再作成している。	子どもに関わる職員でアセスメントをもとに話し合っ作成している。
	11 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			対人面、コミュニケーションを中心に5領域について子どもの状況を把握する内容の物を使っている。
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		子どもの状況、課題をふまえ、具体的に支援内容を書くようにしている。	本人支援、家族支援については、なるべく保護者とやりとりして同じ方向を向いて支援していけるように、内容についての確認を具体的にしよう努めている。
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○			
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	○		それぞれのクラスで検討をしながら活動内容を考えている。	
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		内容や子どものグループ分け等やってみてどうかを振り返りと改善をして固定化しないようにしている。	子どもの発達状況や関係性をもとに、クラスの中でもグループ分けして、プログラムを実施している。プログラムの内容については毎回、振り返りをして改善している。
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○			子どもの状況に合わせて個別活動を多くしたり、集団活動を多くしたり、その時々で判断しながら、個別支援計画を作成している。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		打ち合わせの時間が確保できない時でも連絡をとりあい確認している。	支援の内容については、前日に確認したり、当日の朝だったり、内容によって変わるが打合せをして臨むように心がけている。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		打合せ、振り返り共にできる職員で必ずするようにして、重要なことは共有している。	業務の関係で全員の職員が集まって、振り返りをするのが難しくても、直接対面で話をしたり、LINEでやりとりしている。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		記録は必ずつけている。子どもの状況を振り返ったり、必要な支援を検討している。	記録は必ず取るようにしており、子どもの状態を振り返る時に見られるようにしている。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○			
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		サービス担当者会議には子どもに一番関わり、理解している職員が参加している。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		日頃から関係機関と連携している。	複合的な課題を抱えたケースについては、関係機関と連携して情報共有と役割分担をして支援していきたい。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障がい福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている				現在は医療的ケアの必要な子どもがいないが、受け入れをした時には、地域の関係機関と連携して支援したい。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている				
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		就園先の職員に来園していただき、子どもの様子を見たり、普段の様子をビデオで見てもらった上で、支援内容について情報共有し、理解してもらうようにしている。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○			
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		他の事業所の研修を受けたり、助言を求めることもあるが、機会としては少ない。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○	現在はコロナ渦で行う事が難しいが、以前は交流があった。	感染症の流行の状況を見ながらにはなるが、交流がプラスになる子どもについて保護者とも確認して、再開するかどうか検討したい。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○			協議会のこども部会の部会長として、今後も企画、運営を行い、地域の障がい福祉の向上に努力したい。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		親子通園や家庭訪問をしていることもあり、日頃から保護者と子どものことを話したり、相談にのっている。	日頃から保護者とのやりとりはしているつもりではあるが、共通理解を得られているか、保護者と確認する機会を多くもちたい。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○		子育てセミナーや勉強会等を実施し、保護者の理解が深まると同時に負担が軽減されるように支援している。	ペアレントトレーニングの研修を職員が受けたり、いろんな勉強の機会を保護者に提供して、保護者が対応力をつけていってもらえるよう支援している。
32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○				
33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○			個別支援計画については支援内容の説明を行い、保護者から同意を得ると共に共通の認識をもっと取り組んでいきたい。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		クラス毎にグループ相談や個別相談や電話相談などを行い、助言と支援を行っている。	子育ての悩みや家庭の問題など保護者の話を聞いて、相談にのり、必要な支援を行ったり、支援につなげたりしている。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		保護者会を組織し、保護者の要望を聞くと共に、保護者同士で交流する機会を定期的に行っている。	保護者会があり、年間を通して茶話会や食事会等、保護者同士で交流する場を支援している。
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		子どもや保護者からの相談や申し入れについては、随時受け付けていることを周知し、対応している。	相談や申し入れには迅速に対応している。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		園だよりや法人の機関紙等を定期的に発行して、活動の予定や報告などお知らせしている。	園だよりやホームページなどで発信している。内容についてはその都度、検討しわかりやすく興味を持ってもらえるものにしたい。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○		スマホでの施設内の写真撮影については、原則やめてもらうよう保護者にもお願いしている。	施設側だけでなく、保護者にも協力をお願いして、個人情報の取扱いには十分に注意していきたい。
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		口頭、プリント、掲示物、タブレット等を利用し、わかりにくい場合は個別に対応している。	障がいへの配慮や外国人の保護者とのコミュニケーションについては口頭だけでなく、スマホ機能を使うようにしたい。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		コロナ感染症対策の為、地域との交流の機会が減り、実施できていないが以前は行われていた。	今年度は4年ぶりに園庭でのお祭りと一部地域の人にも開放して行った。今後も状況を見ながら地域の人たちに参加してもらえる機会を作りたい。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○			毎年マニュアルをもとに職員や保護者に内容を確認した上で、訓練を行うようにしたい。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		毎月、火災や地震、津波のいくつかの訓練を行っている。	いざという時に職員が主体的に動けるように訓練を積んでいきたい。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		毎年初めに確認している。	予防接種の履歴欄がないので書類の整備をしたい。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○			アレルギーのある子どもについては、主治医の指示書の提出を保護者をお願いし、適切に対応していきたい。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		小さい事でも記録に残し、職員で共有している。	毎年、事例集をもとに職員全体で研修し、共有に努めたい。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		虐待防止委員会、虐待研修などを定期的に行っている。	虐待防止委員会を毎月行うことで職員の意識も変わってきているので、今後も研修も含めてしっかり取り組みたい。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		車イスやヘッドギア等の利用については、保護者に了解を得た上で、記録や支援計画に記載している。	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。